

紙版 ハコブネ×ブックス vol.29

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



分解系女子マリー

MARIE CURIOUS, GIRL GENIUS
:SAVE THE WORLD.

作者 クリス・エディソン
翻訳者 橋本恵
出版社 小学館
発行 2021年6月
ISBN 978-4092906457

review



特集

科学の勝利だ

科学万能の時代です。テクノロジーの進歩がすべての問題を解決に導き、薔薇色の未来が始まる。とはいえ、科学には多面性や功罪もあり、手強さもありません。児童文学作品には科学好きの子どもたちがよく登場します。探究心とアイデアに優れ、発明や発見に興味がある好奇心旺盛なタイプは、変わり者で孤高を気取りがちです。科学的であろうとするのは大切ですが、科学では割り切れないことも世界には溢れています。何より、科学を人の幸福につなげられなければ意味はないのです。この世界を解明し、叡智の光で照らすにはどうすれば良いか。子どもたちは色々な壁に突き当たりながら、協力しあうことに答えを見出します。自分の心の未知なるものを明らかにして、より深く考え実証する。真に科学的であるとはどういうことか。探究と解明のスピリットがみなぎる物語から、その先にある勝利が見えてくるはずですよ。

小さな頃から科学的探究心が強く、家中の道具を分解してきた、将来は発明家になりたいという夢を抱く十二歳の少女マリー。ある日、彼女の家の前に降下したドローンから、世界有数のテクノロジー企業「パンス社」が主催するサイエンスキャンプに招待するというメッセージを受け取ります。そこは若手科学者が学ぶための世界一有名なサイエンスキャンプでした。しかし、参加者を互いに敵視させ競わせようとするパンス社社長の姿勢に、マリーは次第に違和感を覚えます。パンス社が安全性よりも他社に勝つことを優先しようとしていることを知った自分たちの得意分野の能力を発揮して、パンス社社長の暴走を食い止めようとする。最後に勝ったのは、子どもたちの信頼関係に基づいた協力が協調の姿勢だったのです。

東京タワーに住む少年



作者 山口理
出版社 国土社
発行 2022年3月
ISBN 978-4337336537

review



東京タワーにはレインボー・センタリーという秘密の研究室が存在しています。半世紀以上に渡って、そこでは東京タワーに虹を架ける装置が研究されてきました。設計技師の一人である亡き田所正太郎の、東京タワーを夢と希望の象徴にしたいという願いを託された彼の一族は、秘密裏に研究を続けてきましたが、完成には遠く、計画は行き詰まっています。正太郎の曾孫である小学六年生の科学好きの少年、田所健人は、祖父をサポートしながら、自分でも独自に研究を進めていました。誰の力も借りず、自分ひとりの力で切り開いてこそ真の科学だと信じていた少年は、優れた最新の研究が停滞した状況を打開すると気づき、協力者をプロジェクトに迎えることを祖父に提案します。人は支え合い協力し合うことで夢を実現できる。頑なだった少年が科学の真髄を知る物語です。

ブラックホールの飼い方



THE CARE AND FEEDING OF A PET
BLACK HOLE.

作者 ミシェル・クエヴァス
翻訳者 杉田七重
出版社 小学館
発行 2020年10月
ISBN 978-4092906280

review



一九七七年。宇宙探査機ボイジャーが外宇宙に旅立とうとする年。十一歳の科学好きの少女ステラは、どうしても宇宙に運んで欲しいものがあり、NASAを訪ねたものの門前の後をついてきてしまいました。それはボヤっとした闇です。理論天文学の本の中に、ステラはその正体を見つめます。ブラックホール。あらゆるものを呑み込んでしまう重力の中心。ブラックホールが消し去ったものは、その記憶も消滅させます。亡くなったパパの声を録音していたステラに乗せたいと思っていたステラは、いつそ思い出さなければ辛い気持ちもなくなると、思い出の品をブラックホールに呑み込ませます。それでも、未来の自分のために忘れてはならない過去もあるのです。ブラックホールの底で、ステラは目を逸らさず過去に立ち向かい、大切なものの存在を実証していきます。

セカイを科学せよ!



作者 安田夏葉
出版社 講談社
発行 2021年10月
ISBN 978-4065246290

review



ロシア人の母親を持ち、白人の子孫のような外見を持つ中学二年生の藤堂ミハイルは、人に特別視されないように学校生活を送っていました。なんでも無難にこなし、敵も作らない彼は、所属する科学部の部長代理も任せられます。そんな折、同じクラスに黒人ハーフの山口アビゲイル葉奈が転校してきます。その目を引く外見にミハイルは秘かに親近感を抱きますが、葉奈は目立つことを物ともせず、昆虫や爬虫類を好きだと公言し、孤立を恐れない強さを見せます。葉奈が入部したことで、停滞していた科学部は刺激を受けます。葉奈の活動を学校に認めてもらうため、ミハイルも彼女の科学的な研究成果の発表に協力します。他人からおしつけられたイメージを覆し、本当の自分を追及する。本質を求め検証を重ねていく科学的なスピリットを子どもたちは学んでいきます。

特集

科学の料理だ



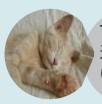
ダーウィンと出会った夏 (ジャクリン・ケリー) ほるぷ出版 2011年

一九九九年。この夏、もうすぐ十二歳になる少女「キヤルバーニア」は『種の起源』に出会い、自然科学に目覚めます。保守的な田舎町に暮らす彼女は、独自の研究にいそむ祖父の共同研究者として、科学的な態度でこの世界を記録していきます。科学によって進化する子どもたちの感性を捉える物語がここにあります。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.29

2022年8月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。

@tomoostretch